

琉球大学学術リポジトリ

沖縄文化学習を目的とした内容優先型プログラムの
開発：韓国の学生を対象としたサマープログラム

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学留学生センター 公開日: 2015-04-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新城, 直樹, 渡真利, 聖子, 金城, 尚美, Arashiro, Naoki, Tomari, Seiko, Kinjo, Naomi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/30735

沖縄文化学習を目的とした内容優先型プログラムの開発 － 韓国の学生を対象としたサマープログラム－

新城直樹・渡真利聖子・金城尚美

1. はじめに

2014年8月に韓国の慶熙（キョンヒ）大学の日本語専攻の学生を対象とした短期のサマープログラムを実施した。琉球大学留学生センターにおける、慶熙大学の学生を対象としたサマープログラムの実施は2012年、2013年に続き3回目となるが、日本語を専攻する学生が日本文化に実際に触れることを主目的としている。特に沖縄での研修は、日本本土とは異なる沖縄文化に触れること、米軍基地が置かれている現状、歴史の流れの中での社会事情について学び、日本も多様性のある国であることを理解することが学習目標となっている。そのため研修参加者は、日本語専攻学生を対象としているものの日本語の習得を第一目的としておらず、文化理解を目標としていることから、内容優先型（contents-based）の教育プログラムとなっていることが特徴としてあげられる。今回で3回目となる今回は参加学生の学習の要望を事前に調査し、さらに過去の実践を踏まえた上で、新たなカリキュラム編成を行った。本稿は今後の教育実践に資することを目的として研修参加者（学習者）から得た評価により沖縄文化を学ぶことを目標とした内容優先型（contents-based）の教育内容や指導法の成果について検討する。

2. 慶熙大学校の参加学生について

慶熙大学（英称 Kyunghee University）は、1949年に創立されたソウル市東大門区回基洞に本部を置く私立の総合大学である。19の大学と75の学部・学科で構成され、ソウル、水原（スウォン）、光陵（クァンヌン）の3か所にキャンパスを構えている。今回のサマープログラムの参加学生は、慶熙大学校・水原（スウォン）キャンパス、外国語大学*日本語科の学生である。

学年は、1～4年次までの19名（1年次5名、2年次6名、3年次3名、4年次5名）で、男女の内訳は男子学生9名、女子学生10名であった。日本語学習歴は6か月～9年までと幅広く、大学に入ってから日本語を学び始めたという学生、大学入学前にも語学塾や独学で学んできたという学生など、多様で日本語力に差があった。日本語力の客観的テストの受験経験者は19名中12名で、JLPT日本語能力試験N1合格者が9名（この内JPT受験者2名）、N2合格者が1名であった。

3. サマープログラムの概要

本プログラムは、慶熙大学の海外研修制度の一環として実施されており、学習言語が

使われている現地、沖縄での研修は、第二言語の習得を第一の目的とせず、その土地の歴史、社会事情を学び、文化に触れ、人と接することにより、異文化を理解することである。慶熙大学が特に沖縄を研修地を選んだのは、本土とは異なる歴史、地理、文化を学ぶことで日本を多角的に捉える視点を養うことを目的とするためであった。

表1 受講者の背景情報

	性別	学年	日本語学習歴		JLPT/JPT 受験
①	女	1	6 か月	自宅学習 2 か月、大学 4 か月	-
②	男	1	1 年 4 か月	自宅学習 1 年、大学 4 か月	-
③	女	2	1 年 4 か月	大学 1 年 4 か月	-
④	女	2	1 年 5 か月	大学 1 年 5 か月	-
⑤	女	2	1 年 6 か月	大学 1 年 6 か月	-
⑥	男	3	3 年	大学 3 年	-
⑦	女	1	3 年 4 か月	高校 3 年、大学 4 か月	
⑧	女	3	3 年 6 か月	高校 6 か月、大学 3 年	-
⑨	男	4	6 年	自宅学習 1 年、高校 2 年、 大学 2 年、日本語学校・塾 1 年 ※1 年留学（東京）	-
⑩	女	4	9 年	自宅学習 3 年、高校 3 年、 大学 2 年、その他 1 年 ※1 年留学（東京）	-
⑪	男	4	4 年 3 か月	大学 4 年、日本語学校・塾 3 か月	JLPT N1 合格
⑫	女	2	4 年 4 か月	大学 1 年 4 か月、 日本語学校・塾 3 年	JLPT N1 合格
⑬	女	2	4 年 6 か月	高校 2 年、大学 1 年 6 か月、 日本語学校・塾 1 年	JLPT N1 合格
⑭	女	1	5 年	高校 3 年、大学 6 か月、 日本語学校・塾 1 年 6 か月	JLPT N1 合格
⑮	男	4	5 年	高校 1 年、大学 3 年 6 か月、 その他 6 か月	JLPT N1 合格
⑯	男	1	7 年	自宅学習 6 年、高校 1 年	JLPT N1 合格
⑰	男	4	7 年	自宅学習 3 か月、大学 7 年	JLPT N1 合格 JPT 725 点
⑱	男	2	9 年	自宅学習 5 年、高校 2 年、 大学 2 年	JLPT N1 合格 JPT 945 点
⑲	男	3	9 年	高校 3 年、大学 3 年 ※「自宅学習」と「日本語学校・塾」 を含めて計 9 年間。	JLPT N1 合格

3-1. 事前の情報収集

学習歴、学習ニーズや興味・関心のある事などの情報を事前に把握するため、慶熙大学の担当教員を通して、参加学生全員に情報シートの記入を依頼し、来沖前にメールで提出してもらった。情報シートの内容は以下の通りである。

- 1) 本人情報
- 2) 緊急連絡先
- 3) 日本語学習歴
 - 3-1) 「自宅学習 ～年～か月」、「高校 ～年～か月」等
 - 3-2) 日本語の勉強に使った教科書（教科書名、著者・出版）
 - 3-3) 日本語能力試験（受験日、結果等）
 - 3-4) 日本語力試験 JPT（受験日、得点）
 - 3-5) 来日経験及び来日場所
- 4) 日本語能力
四技能（聞く・話す・読む・書く）を「大変よくできる / よくできる / ふつう / できない」の四段階で自己評価
- 5) 言語の知識
英語またはその他の言語について、「大変よくできる / よくできる / ふつう / できない」の四段階で自己評価
- 6) 趣味・特技
- 7) 志望動機とやりたいこと
 - 7-1) このサマープログラムに参加したい理由と目的
 - 7-2) このサマープログラムでやりたいこと、期待すること

3-2. ニーズ分析

本プログラムで学びたいことについては、表2の通りである。「沖縄の歴史について学びたい」という回答が最も多かったため、カリキュラムを編成する際に、歴史という観点から、具体的な学習内容を細分化・具体化して考えた。たとえば、琉球王府についての近世史として「琉球史」、その「琉球史」と関連させ、首里城とその周辺の見学を入れる等、知識と体験が得られるカリキュラムを目指した。近現代史としては、沖縄戦と現在米軍基地がある沖縄の現状に関する内容も取り入れ、渡嘉敷島研修の際に戦跡を巡る日程にした。また、沖縄の歴史の中で育まれてきた「沖縄の文化」として「伝統芸能」、「年中行事と食文化」「うちなーぐち」（琉球語）をテーマとした授業と、それに関連した「県立博物館」の見学、「沖縄の歌と踊り」、「空手」の体験学習を組み込んだ。カリキュラムの内容は、後述する表3と表4の通りである。

表2 参加学生の学習の要望

	沖縄の何について学びたいか（記述例）	計
①	歴史（例）「沖縄の歴史について学びたい」	9
②	うちなーぐち（例）「沖縄の方言について学びたい」	5
③	沖縄戦と基地問題	4
④	沖縄の自然	3
⑤	「沖縄人」や「本土」という言葉（例）「なぜそのような言葉を使うのか？」	2
⑥	建築様式	1

※「計」は人数ではなく、記述内にあった該当内容の数

事前の情報シートの中で、「沖縄について学びたい」という意見に次いで要望が多かったのは、「日本人との交流」であった。「日本人との交流」について自由記述欄に記載があった学生は19名中8名で、例として以下のような記述があった。4名の学生の記述を紹介する（*学生が書いたままを掲載）。学生からのこれらの要望は昨年度までのサマープログラムの際にも同様に挙がっており、可能な限り、日本人学生と接する機会を作ることが、研修内容を計画する際の課題であった。

要望例1：

性別	学年	日本語学習歴		JLPT/JPT
女	1	6か月	自宅学習2か月、大学4か月	－
このサマープログラムに参加する一番の理由は日本人々と直接出会う機会があるということです。日本には大きな関心があるがまだ日本人の友達もいないし、日本の文化についての理解もまだまだ足りないと考えました。でも、このサマープログラムにはいろんな友達と付き合う機会もあると聞きました。そのどころが私には参加することを決める一番の理由だと思います。				

要望例2：

性別	学年	日本語学習歴		JLPT/JPT
女	2	1年5か月	大学1年5か月	－
日本語学科に入ってきて、日本の歴史や文化について多くを学んだ。ところで、日本を一度も行ったことがなくて、今回の研修を通して見たかった。行って日本語をたくさん使ってみて、日本人の友達も付き合いたい。また、日本本土とは異なる沖縄独特の文化や伝統、歴史を学びたくて、今回の研修に申し込むことになった。				

要望例 3 :

性別	学年	日本語学習歴		JLPT/JPT
女	2	1年6か月	大学1年6か月	-
<p>沖縄という地域に対する気がかりなことが多いです。</p> <p>日本の本土の人々とはどのような違いがあるのか（例えば、顔立ちや食文化など）、本土のように<u>紳士*</u>が多いのか、使われる言語は、日本の標準語に対応するかなどの疑問を解決したいと思います。</p> <p>元を知っていた日本とはまた別の文化であるように思えるその文化を経験し、学びたいと思います。 *紳士は「神社」の誤り</p>				

要望例 4 :

性別	学年	日本語学習歴		JLPT/JPT
女	2	4年4か月	大学1年4か月、日本語学校・塾3年	N1
<p>やりたいことは、できるだけ日本語をたくさん話すことです。私は日本語を勉強しながら一番難しいのが話すことだと思います。こう考えていても実際に言葉にはでてこないことが多いですが、今回のサマープログラムで会話の練習をやりたいです。また日本の友達を作りたいです。お互い言葉とかを教えあうことができたらいいなと思います。また、いきた表現をたくさん身につけたいです。</p> <p>私がこのサマープログラムで期待していることはやはり沖縄のすてきな風景と文化です。沖縄の海はすごく綺麗だとよくいわれますが、実際に目にしてみたいです。沖縄の方言もならってみたいです。今学期の授業のなかで、方言を勉強する機会があったのですが、沖縄の方言はすごく面白かったです。日本語のように聞こえないくらいでした。もっといろんな表現をならうのを期待しています。</p>				

3-3. カリキュラム編成

日本での研修の学習時間は、16時間で、日数に換算すると1週間程度という限られた時間内でいかに充実したカリキュラムを編成するかが課題であった。過去2回のサマープログラムの実践の成果から、可能な限り座学のみならず、体験学習や見学を組み込むことにより現地学習の意義を高める工夫を行った。その結果、カリキュラムは、教室活動で1コマ90分の授業を7コマ、「見学・体験形式」で7つの授業を設け、研修最終日に全体のまとめと研修成果を発表する時間を設定した。サマープログラム参加学生全員が沖縄は初めての訪問ということから、歴史・文化などの基本的な知識を学んだ上で、関連する見学や体験を実施する計画を立てた。最終日のまとめと発表会を含めると総時間数は、約28時間30分となった。

表3 カリキュラム

講義形式（各 90 分）		見学・体験形式		グループ作業・発表形式	
①	琉球史	①	見学①首里城 90分	①	学習記録のまとめ 90分
②	平和学習① （戦争と平和）	②	見学②県立博物館 90分	②	研修成果発表の準備 90分
③	平和学習② （米軍基地問題）	③	見学③渡嘉敷島内の史跡・戦跡巡り 120分	③	研修成果発表会 60分
④	沖縄の文化①ことば （うちなーぐち）	④	体験学習① 空手 60分		
⑤	沖縄の文化②伝統芸能 （エイサー・組踊）	⑤	体験学習② エイサー 60分		
⑥	沖縄の文化③年中行事と食文化	⑥	体験学習③ 沖縄の歌と踊り・浴衣着付け体験 120分		
⑦	沖縄の生物・自然	⑦	体験学習④ 海洋研修 2日間		

3-4. プログラム日程

8日間の研修（17日と26日は移動日）の全体の日程を表4に示す。

表4 2014年慶熙大学サマープログラム日程表

日付	午前		午後				
	09:00-10:30	10:40-12:10	13:00-14:00	14:00-15:00	16:30-18:00		
8/17	日	ソウルー那覇（沖縄到着）		（宿舍移動）	自由行動	日本人学生との交流会	
8/18	月	面接	琉球史	見学①（首里城）			
8/19	火	沖縄の文化① うちなーぐち	沖縄の文化② 伝統芸能（エイサー・組踊）	体験学習① 空手	体験学習② エイサー		
8/20	水	平和学習①	平和学習②	見学② 県立博物館			
8/21	木	沖縄の文化③ 行事と食文化	沖縄の 生物・自然	体験学習③ 沖縄の歌と踊り・浴衣着付け体験			
8/22	金	体験学習④海洋研修（シュノーケリング等） ※国立沖縄青少年交流の家（渡嘉敷島）で宿泊					
8/23	土	宿舍清掃 体験学習④海洋研修		見学③ 渡嘉敷島内の史跡・戦跡巡り			
8/24	日	自由行動					
8/25	月	学習記録の まとめ	研修成果発表 の準備	研修成果 発表会	修了式		
8/26	火	（空港移動）		那覇ーソウル（韓国帰国）			

3-5. 授業内容

次に、授業それぞれについて学習目標、活動内容等を示す。

研修1日目 8月18日 (月)
レベルチェック (面接)
面接にて日本語のレベルチェック。日本語学習の動機や将来の目標等を質問。
講義「琉球史」
目標：沖縄県の地理的、歴史的な基礎知識を得ること。
概要：午後の首里城見学と関連付けた説明。
見学①「首里城とその周辺」
目標：首里城の歴史、建築様式についての基礎知識を得ること。
概要：午前の授業で学んだことを確認しながら、首里城内部とその周辺を見学し、琉球王朝時代の歴史についての理解を深める。
活動：タスクシートで、学習内容の確認を行うこと。 案内の先生の説明を聞き取ること。

研修2日目 8月19日 (火) 午前
講義「沖縄の文化①ことば (うちなーぐち)」
目標：うちなーぐちによる自己紹介ができるようになること。 沖縄の人と接する時に、有益な表現を覚え使えるようになること。 うちなーぐちに親しみ、日本語とは異なる言語であることを理解すること。
概要：直接法によるウチナーグチの練習と理解
活動：①うちなーぐちの自己紹介練習 (氏名、出身、専攻、学年、自分の嗜好) ②うちあーぐちで応答する自動販売機の言葉の聞き取りと理解 ③主にウチナーグチの形容詞を使ったコマーシャルのカットの撮影 ④ていんさぐぬ花という歌を聞き歌詞の意味を理解すること
講義「沖縄の文化② 伝統芸能 (エイサー・組踊)」
目標：沖縄の伝統芸能 (エイサーと組踊) の基礎的な知識を得、文化を理解すること。
概要：音源やVTRを中心に、エイサーと組踊を観賞。その後、その歴史的な概要について説明。午後に体験する「エイサー (踊りの一種)」の事前学習を行った。
活動：エイサーに使用される代表的な民謡などを音源やVTRで観賞。講師による三線の伴奏に合わせ歌の一部を歌う。

研修2日目 8月19日（火）午後

体験学習①「空手」

目標：沖縄空手の基本的知識、動作を実際に体験し、理解を深めること。

概要：沖縄劉衛流空手・古武道龍鳳会「あずさ龍鳳館」館主の豊見城あずさ氏による指導のもと、沖縄空手の基本動作を体験する。（於体育館）

活動：①立ち方の名称と実践

②突きと蹴りの名称と基本動作の実践

③パンチングミットを利用しての突きと蹴りの実践練習

体験学習②「エイサー」

目標：エイサーを練習し、踊れるようになること。

実際にエイサーを踊ることにより、文化に対する理解を深めること。

概要：エイサーの衣装の着方、パーランクーの演舞を練習し覚えること。

活動：エイサーの衣装で、エイサー（曲目「めんそーれ」）の動き、パーランクーの打ち方を練習（於体育館）

日本人学生との交流会

目標：日本人学生と交流し、関係づくりをすること。

渡嘉敷島での研修に同伴する日本人学生ボランティア5名との顔合わせ。

概要：教室にて日本人学生との交流会を開催し、親睦を深めた。日本人学生は計10名（5日目の渡嘉敷島研修に同行する5名、4日目の「沖縄と歌と踊り（活動）・浴衣着付け体験」に協力してくれるサークル「琉球芸能研究クラブ」から1名、その他4名）が参加。

活動：①自己紹介と歓談、②日本人学生による「オリジナル島ぞうり造り」の企画でぞうりに模様を彫る体験を通じた交流、③「琉球芸能研究クラブ」の学生1名による三線の演奏と歌の鑑賞（沖縄の民謡と韓国の歌アリラン）。

研修3日目 8月20日（水）午前／午後

講義「沖縄戦と基地問題の学習①②」

目標：沖縄戦の歴史と米軍基地のある現状について学び、平和について考える。

概要：沖縄戦で多くの命が犠牲になった悲惨な事実について学び、なぜ沖縄に米軍基地が存在するのか、米軍基地に対する県民の意識はどうか学び、沖縄で暮らす人々の思いを理解することにより、平和とは何かを考えるきっかけを作る。

活動：ペアまたはグループワークとして、戦争と聞いて連想するイメージを想起し書き出し、書き出したワードを良いイメージ、悪いイメージに分類する活動をし、言葉の意味

ネットワークの構築を行うことにより、戦争に対する意識を顕在化する活動を軸に授業を展開。その他、沖縄戦に関するビデオを視聴。

見学①「県立博物館」

目標：沖縄の地形、自然、生物、美術工芸、祭りと行事に関して、資料から要点を読み取ることができるようになること。

概要：沖縄の地形形成の歴史、琉球列島各地で発掘された化石、天然記念物の動物、絶滅危惧の動植物、焼物・漆器・織物・紅型等の美術工芸、祭りと行事について、各分野の要点をまとめる。

活動：4グループに分かれ、2時間ほどかけて、博物館内の資料・展示物の中からワークシートの答えを探しながら見学。各グループ、日本人学生サポーター（1～2名）が同行。

研修4日目 8月21日（木）午前

講義「沖縄の文化③ 年中行事と食べ物」

目標：沖縄の家庭料理やその食材、また年中行事とそこで出される料理について、その歴史と独自性、及び韓国との共通点・相違点を知る。

概要：主に「清明祭」等の家族の行事や、地域の祭りの内容、及びそれらの行事に欠かせない料理や、普段の家庭料理と食材について学び、沖縄と日本本土の食文化の違い、及び韓国との共通点・相違点を整理。

活動：①ビデオ教材と解説より、年中行事が実際にどのように行われているかを学ぶ。

②年中行事と沖縄の料理・食材のポイントをシートに書き込み整理。

③沖縄と韓国との共通点・相違点についてディスカッション。

④沖縄料理の食材にじかに触れ、味わう。

講義「沖縄の生物・自然」

目標：琉球列島の形成の歴史や気候、そこに住む生物、及び、沖縄本島周辺の海の様子とそこに住む人々の生活を知る。海の自然については、主に2014年3月に国立公園に指定された慶良間諸島とサンゴ減少の問題に関する知識を得る。

概要：前日の沖縄県立博物館見学にて記入したワークシートをもとに、琉球列島の生物・自然の概要を確認。その後、テレビ番組「世界ふしぎ発見！」（TBS・2014年6月28日放送）を視聴しながら、本諸島について学ぶ。

活動：①博物館見学のワークシートの解答。

②ビデオを視聴して必要な情報（研修先の慶良間諸島に関する情報：海の生物、及び海とともに生活する人々）を収集し、整理。

研修4日目 8月21日（木）午後
体験学習③「沖縄の歌と踊り・浴衣体験」
目標：沖縄の伝統的な楽器と踊りについて、基本的な知識を得る。 浴衣の着付けができるようになること。
概要：琉球音楽、舞踊の鑑賞。琉球楽器に触れる。演奏や踊りを体験する。日本人学生に教わりながら浴衣の着付けを体験。
活動：①サークル「琉球芸能研究クラブ」の日本人学生6名の実演を鑑賞した。 ②日本人学生の指導のもと、4グループに分かれ、三線、琴、太鼓、踊りをそれぞれ30分ほど体験。 ③男女に分かれて浴衣の着付けを学ぶ。

研修5日目 8月22日（金）
体験学習④「海洋研修」
目標：沖縄の自然を体験し、学ぶ。日本人学生と交流する。
概要：日本人学生ボランティア5名を伴い、渡嘉敷島の「国立おきなわ青少年交流の家」で一泊研修を行い、とかしくビーチにて海に入り、沖縄の自然を体験。
活動：①シュノーケリング ②大型カヌー ③シーカヤック

研修6日目 8月23日（土）
体験学習④「海洋研修」
目標：沖縄の自然を体験し、学ぶ。
概要：とかしくビーチにて海に入り、沖縄の自然を体験。
活動：シュノーケリング
見学③「渡嘉敷島内の史跡・戦跡巡り」
目標：渡嘉敷島内の史跡・戦跡を通して島の歴史・地理を学び、平和について考える。
概要：渡嘉敷島の地図を見ながら島の地理を確認し、解説を受けながら史跡・戦跡を巡る。
活動：①旧日本軍「特攻艇」の秘匿壕の見学 ②アリラン慰霊のモニュメント ③フルノチビ：第一玉碎場（自決碑）

<p>研修8日目 8月25日 (月)</p> <p>学習記録のまとめ</p> <p>①各学生のポートフォリオ「学習の記録」の記入状況の確認。未記入の部分の記入 ②事後アンケートの実施</p> <p>研修成果発表会の準備</p> <p>グループに分かれて研修成果発表のためのパワーポイントによる資料の作成と原稿作成 (各グループに、日本人学生サポーター1名を配置)</p> <p>研修成果発表会</p> <p>5グループに分かれ、1グループ1テーマについて研修成果の発表会を行った。</p> <p>①「平和教育について ～私たちが感じた沖縄～」 ②「沖縄戦争（沖縄上陸戦争）」 ③「空手について ～私たちが感じた沖縄～」 ④「沖縄の象徴、シーサー ～私たちが沖縄で感じたこと～」 ⑤「ウチナーグチ」</p> <p>修了式</p> <p>修了証書の授与</p>
--

4. 研修後の調査

研修終了後に本プログラムの内容について評価を得るために、参加学生19名を対象に、事後アンケートを実施した。参加学生19名のうち1名が家庭の事情により研修途中で帰国したため、アンケート調査は、18名の学生から回答を得た。

4-1. 全体の評価

アンケート調査の結果、「研修全体の内容」については、「非常に満足」が7名、「満足」と回答した学生が11名で、満足度は高かった（表5）。実施時期については、「やや不満」と回答した学生が1名いたが、14名が「非常に満足」または「満足」と回答している。また実施期間については、17名が「非常に満足」と回答していることから（表6）、時期や期間について、概ね問題なかったものと判断できる。

表5 全体の内容 (人)

非常に満足	満足	普通	やや不満	不満足	非常に不満
7	11	0	0	0	0

表6 実施時期および期間

(人)

	非常に満足	満足	普通	やや不満	不満足	非常に不満
実施時期	4	10	3	1	0	0
実施期間	5	12	1	0	0	0

4-2. 授業（座学）に対する評価

授業について、「特に興味深かった」内容については(表7)、上位が「琉球史」、「うちなーぐち」、「伝統芸能」であった。学生のニーズ調査で「歴史（琉球史）」と「うちなーぐち」が上位であったことと一致している。また「特に日本・沖縄文化理解に役立ったと思う」内容に関する調査結果を見てみると（表8）、「琉球史」、「沖縄戦と基地問題の学習」、「うちなーぐち」の順に選択した学生が多かった。以上のことから、今回のプログラムで取り上げたトピックについては学生の要望に概ね応えられていたと言えよう。さらに伝統芸能についてはニーズ調査で挙げられていなかったが、独特の文化の一つとして関心を集めたようだ。

表7 特に興味深かった授業（複数回答）

(人)

①	うちなーぐち	9
②	琉球史	8
③	伝統芸能	6
④	平和学習	6
⑤	沖縄の生物と自然学習	3
⑥	沖縄の年中行事と食べ物	1
⑦	なし	0

表8 特に日本・沖縄文化理解に役立ったと思う授業（複数回答）(人)

①	琉球史	12
②	平和学習	10
③	うちなーぐち	5
④	伝統芸能	4
⑤	沖縄の年中行事と食べ物	2
⑥	沖縄の生物と自然学習	2
⑦	なし	0

4-3. 見学と体験学習に対する評価

アンケート調査の結果、「特に日本・沖縄文化理解に役立ったと思う見学・活動」については（表9）、「うちなーぐち講座」、「首里城とその周辺の見学」、「沖縄の歌と踊り

の体験学習」の順に選択した学生が多かった。「首里城とその周辺（見学）」では、午前「琉球史」を専門とする講師が講義を行い、午後同講師が首里城内の解説を行いながら見学を実施した。「琉球史」と首里城見学により、沖縄の歴史・地理の基礎的な知識を学び、中国や朝鮮半島、東南アジア諸国ともつながりがあった沖縄の歴史の独自性を把握することに役立ったようだ。

「うちなーぐち」については今回直接法による教授法で授業を展開したことにより、言語に関する知識を学ぶのではなく、外国語学習と同様にコミュニケーションに役立つ言語習得を目標にしたことが、「日本・沖縄文化理解に役立った」と評価された理由であると考えられる。授業は教室内で行われたが、実際に自分自身が「話す」ことによって具体的に体験できたということが「活動」として「理解に役立った」という評価に繋がっていると考えられる。

「沖縄の歌と踊り」の体験学習は、大学の「琉球芸能研究クラブ」というサークルの日本人学生を講師として招いたことにより、日本人学生との交流もできたことが、参加学生からの要望と合致し、また日本語を積極的に使う機会にもなり、評価が高かったと推察できる。

表9 特に日本・沖縄文化理解に役立ったと思う見学および活動（複数回答）

①	うちなーぐち	6
②	沖縄の歌と踊り（体験学習）	6
③	首里城とその周辺（見学）	5
④	エイサー（体験学習）	4
⑤	県立博物館（見学）	4
⑥	空手（体験学習）	3
⑦	海洋実習（体験学習）	3
⑧	渡嘉敷島内巡り（見学）	3
⑨	浴衣体験（体験学習）	2
⑩	なし	0

(人)

4-4. 「興味深かった理由」と「日本・沖縄文化理解に役立った理由」

アンケートでは「興味深かった理由」と「日本・沖縄文化理解に役立った理由」についても記述形式で回答を求めた。表10、表11、表12に、評価が高かった「琉球史」、「うちなーぐち」、「沖縄戦と基地問題の学習」に絞り、学生からの記述をまとめて示す。見学や体験学習、合宿、研修成果発表準備などの時間に、日本人学生に活動に参加してもらうなど、交流する機会を数多く作ったことが、日本語によるコミュニケーションの場や現地でなければできない体験として、有意義な研修であったと評価されるプログラムになったのではないかと考えられる。

表 10 特に興味深かった授業

	選択した授業（複数回答）	理由
①	琉球史	せんせいのせつめいがほんとうによかった。
②	琉球史	全体的に沖縄の歴史を知る事ができてよかった。
③	琉球史	知らなかった沖縄のれきしを分かるようになるから。
④	琉球史	（未記入）
⑤	琉球史、伝統芸能、平和学習	教科書では学べない話がたくさんあって興味ぶかかったです。
⑥	琉球史、うちなーぐち、 伝統芸能、沖縄の年中行事と食べ物、 沖縄の生物と自然学習	新しいものを学べるのはよろこびです。
⑦	琉球史、うちなーぐち	（未記入）
⑧	うちなーぐち、伝統芸能	参加する活動が多かった。
⑨	うちなーぐち	沖縄の方言を習って使うことができたためだ。
⑩	うちなーぐち	いちばん沖縄らしかった。
⑪	うちなーぐち	日本の標準語と違うですから、興味深かった。
⑫	琉球史、うちなーぐち、伝統芸能、 平和学習	私が一番興味がある分野だから面白くて易しく聞くことができました。
⑬	平和学習	沖縄戦争について教えてもらってよかった。
⑭	平和学習	沖縄人が戦争について持っている思いをよく学んだ。

*回答記述は本人の記入通り

表 11 特に日本・沖縄文化理解に役立ったと思う授業

	選択した授業（複数回答）	理由
①	琉球史	おきなわのあなしいれきしと、かんこくについているてんをすることになるじかんでした。
②	琉球史	歴史と文化をすべて勉強することができました。
③	琉球史	文化は歴史に一番えいきょうを受けるからでした。
④	琉球史、伝統芸能	歴史と文化が一番重要なものだから。
⑤	琉球史、平和学習	（未記入）
⑥	琉球史、平和学習	海洋の実習
⑦	琉球史、平和学習	日本の歴史について知らなかった部分を分かたら、文化をもっと理解しやすくなっていた。
⑧	琉球史、平和学習	歴史を知ることが文化理解を助ける最もいい方法だと思う。
⑨	琉球史、うちなーぐち、平和学習	沖縄の歴史と文化を直接的に知ることができる授業だったからだ。
⑩	琉球史、うちなーぐち、伝統芸能、平和学習	沖縄の史をべんきょうしながらかなしいれきしといろんなものをしました。
⑪	琉球史、うちなーぐち、伝統芸能、平和学習、沖縄の年中行事と食べ物、沖縄の生物と自然学習	みなあたらしいのなので興味を持つようになって文化を理解するにやくに立ちました。
⑫	うちなーぐち	うちなーぐちを習うことによって沖縄と日本本土の文化の差が分かりました。
⑬	平和学習	文化を理解するためには歴史をしらなければならないからです。
⑭	平和学習、沖縄の年中行事と食べ物	韓国人として持っていた考えと同じだった。

*回答記述は本人の記入通り

表 12 特に日本・沖縄文化理解に役立ったと思う見学・活動

	選択した見学・活動名	理由
①	首里城とその周辺（見学）	日本本土とは違う琉球ならではのいぶきを感じられた。
②	首里城とその周辺見学	（未記入）
③	首里城とその周辺見学、 渡嘉敷島内見学	首里城で琉球王国を、渡嘉敷島で自然を学んだ。
④	首里城とその周辺（見学）、うちなーぐち、空手、エイサー、沖縄の歌と踊り（体験学習）、浴衣体験、海洋実習、渡嘉敷島内見学	みなあたらしいのなので興味を持つようになって文化を理解するにやくに立ちました。
⑤	首里城とその周辺（見学）、うちなーぐち、沖縄の歌と踊り（体験学習）	「百聞が不如一見」という言葉が韓国にあります。百回の授業より一回の見学から学ぶのが多いのです。
⑥	うちなーぐち、沖縄の歌と踊り（体験学習）	（未記入）
⑦	うちなーぐち	沖縄の original 文化をべんきょうしました。
⑧	うちなーぐち	沖縄のみを使用するので。
⑨	うちなーぐち	琉球だけの文化を理解するに役にになりました。おきなわだけのことばなのできょうみぶかいでした。
⑩	空手、エイサー、沖縄の歌と踊り、海洋実習	楽しく活動することができた。
⑪	空手、エイサー	沖縄伝統文化だからだ。
⑫	エイサー、県立博物館見学	（未記入）
⑬	沖縄の歌と踊り、浴衣体験	沖縄の伝統を直接体験してからです。
⑭	沖縄の歌と踊り	沖縄の歌に沖縄の特徴がよくあらわれたからです。
⑮	県立博物館見学	沖縄の歴史的な唯物を多く見学しました。
⑯	渡嘉敷島内巡り見学	沖縄といえばやはり自然の部分が大事なことからです。

*回答記述は本人の記入通り

5. まとめ

本プログラムについては、事前の情報シートから得られた学生からの「沖縄について学びたい」という要望に対して、沖縄独自の文化を軸とした内容優先型 (contents-based) のプログラム構成を検討し、学習内容とリンクした見学や体験、活動を組み合わせたカリキュラム編成を行った。特に「琉球史」、「うちなーぐち」、「沖縄戦と基地問題の学習」の3つのテーマに対する学習満足度が高かったことから、これら3つのテーマが沖縄独自のカリキュラム開発の軸になると言えるのではないだろうか。

「自然・地理」を学ぶ場として「沖縄の生物と自然学習（座学）」と「海洋研修（体験）」が、そして「歴史」を学ぶ場として「琉球史（座学）」と「沖縄戦と基地問題の学習（座学）」と首里城等の見学が、「言語（うちなーぐち）」では「うちなーぐち（座学）」に加え、歌詞の中にうちなーぐちがあることから「伝統芸能」や「沖縄の歌と踊り（体験学習）」等がそれぞれ関連しあっている。そして日本人学生に教室活動や体験学習の場に参加してもらい機会を作ることにより、学習と交流の相互作用が促進され、学習効果と満足度が高まったと推測できる。今後、沖縄文化学習をコンテンツとした内容優先型のカリキュラムの開発に本プログラムの実践の試みが役立つものと思われる。

6. おわりに

サマープログラムの研修参加者の学習歴が6か月～9年までとかなり日本語力に差があったものの、内容優先型のプログラムであったこと、日本語力の高い学生が低い学生のサポートを行い協力し合えたこと、教室内でのタスク活動を多くしたこと、教室内学習と体験学習および見学を組み合わせたこと、日本人学生をサポートとして協力を得る機会を多く設けた等により、言語が学習の大きな障害にはならなかったようだ。内容優先型、内容重視の教育というと、上級レベルの日本語学習者を対象とした指導として考えられる傾向があるが、日本や沖縄等の歴史や文化等を学ぶことを目的としたクラスにおいて、初級から上級レベルまでの学習者が混在する状況でも有効であることが示されたのではないだろうか。ただし、母語が同じである学習者が対象であったことが、それを可能にした要因の一つであるとも考えられる。

引率教員（1名）に、今回のプログラムに関する評価を依頼したが、特に①教員と参加学生との会話を通して、直接、日本語をたくさん話したり、聞いたりする経験ができたこと、②同世代との会話する機会は、韓国では少ないため、有意義だったこと、③（研修の目的である）沖縄の歴史、言語、文化についての理解が深められたこと、がプログラムの良さとして高く評価された。また引率教員から見て「学生の満足度は非常に高く、研修前から、期待度も高かったが、期待を上回ったという感想を学生から聞いている」という報告から、プログラム参加者からも高評価だったことが裏づけられた。

沖縄の独自の文化を中心としたカリキュラム開発のために学生評価等を質的に分析していくことが今後の課題であるが、どのような学習者にとって、どのような学習課題を達成するために、どのようなメディアが学習効果を上げるかという特性処遇課題交互作用（TTTI）の枠組みからのさらなる分析と考察が必要である。

[註]

* 韓国では、日本の学部にあたる組織を「大学」と称する。

引用および参考文献

- 杉原道子・内山造道・家根橋伸子・石口智堂・徳永慎太郎（2011）「グローバル化時代における大学の短期語学研修プログラムの真価：日本語・日本文化サマープログラムの実践と考察」『大学教育』8, 山口大学大学教育機構, pp.65-77
- 中溝朋子（2012）「山口大学日本語・日本文化サマープログラムの改善を目指して：2012年チューター学生対象アンケート分析結果を基に」『大学教育』10, 山口大学大学教育機構, pp.39-53
- 真島知秀（2014）「2013年慶熙大学・琉球大学サマープログラムの実施について」『琉球大学留学生センター紀要』1号, 琉球大学留学生センター, pp.41-53
- 松瀬成子・今西利之（2010）「熊本大学サマープログラム2009における日本語教育について」『熊本大学国際化推進センター紀要』1, 熊本大学, pp.49-58
- 山元淑乃・金城尚美（2013）「サマープログラムに対するニーズと評価 ―受講生と指導者に対する調査の質的分析から―」『大学教育センター報』琉球大学大学教育センター, pp.147-163（共著：山元淑乃）